

# 赤十字新聞

The Red Cross Journal Japanese Red Cross Society publication

編集・発行／日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL.03-3438-1311 一部20円

# 8 Aug 2009

Vol.831 http://www.jrc.or.jp



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

# 若年層の「献血離れ」に歯止めを！



献血をする佐世保市の山本隆成さんに「献血は何回しましたか？ 何回目で慣れましたか？」とねぎらいのお言葉をかけられる皇太子殿下



第45回献血運動推進全国大会

## 各国赤十字から ソルフェリーノに数千人



トーチを手に集う参加者

アンリー・デュナンによって  
赤十字思想が提唱されるきっかけとなった「ソルフェリーノの戦い」から150年。  
イタリア北部のソルフェリーノで6月23日から28日、「第3回赤十字・赤新月ユース会議」

が開かれました。27日には世界の赤十字関係者ら数千人がトーチを手に集まり、デュナンらが負傷兵を運んだ足跡をたどりました。  
日本からは青年赤十字奉仕団の活動に参加する南山大学4年の佐藤翔太さん(22歳)ら4人の青年も参加。佐藤さんは「ユース会議での貴重な経験を、日本のユースと分かち合っている様々な問題に対して、日本のユース

ソルフェリーノの戦いは、イタリア統一戦争での戦いの一つ。1859年6月24日、フランス軍とオーストリア軍を中心とした戦いで、約4万人が死傷しました。この戦いを目撃したデュナンは、凄惨な戦いと負傷兵の悲惨な姿に衝撃を受け、人道救護活動に乗り出します。そして「戦場の負傷者は敵味方の区別なく救護すべきだ」という赤十字思想を提唱することになります。



記念イベントでは、赤十字国際委員会(ICRC)のケレンバール・総裁が、デュナンの功績をたたえるところにも、今も世界の各地で拡大する戦争被害者への支援強化を訴えました。

## 赤十字思想誕生150周年を祝い式典

日本赤十字社の近衛忠輝社長は、若年層の献血者減少について「近い将来の血液不足が現実的な問題」と危惧を

述べた。  
献血推進賞に本田技研工業 学術賞に片山透氏  
血液事業に貢献した個人・団体に贈られる「昭和天皇記

皇太子殿下は「上総君でしたね。7才は早いですね。うちの娘も7才です。寂しいですか」とお声をかけられました。

式典では皇太子殿下が「献血運動は、連帯感や人間愛を醸成することにも役立つ大切な活動です。長崎での大会を契機に、とりわけ若い人たちの献血への理解と協力が一層深まり、世代、年齢を超えて献血運動の輪が広がることを希望します」と国民に呼びかけました。

昨年初めて100人を突破した点に触れ、「血液を提供する日本人の健康そのものが問われている。公衆衛生の観点から、国をあげて取り組むべき課題である」と訴えました。

皇太子殿下は「上総君でしたね。7才は早いですね。うちの娘も7才です。寂しいですか」とお声をかけられました。

日本赤十字社名誉総裁である皇太子殿下をお迎えし、第45回献血運動推進全国大会が、長崎県佐世保市のアルカスSASEBOで7月16日に開催されました。7月に取り組まれた「愛の血液助け合い運動」にあわせて毎年開かれているもので、今年は全国から1500人が参加。国民の命と健康を守るための血液事業のさらなる発展を誓い合いました。

表明。その改善をはかるため、教育現場や職場、マスコミなど社会全体の後押しを呼びかけました。また近衛社長は、国内でエイズウイルス(HIV)に感染していた献血者が

さんか若い頃の輸血経験と看護師になったいまの思いを、長崎市の光武綾さんが3年前に病で亡くなった息子の治療で認識できた献血のすばらしさを話されました。



念血液事業基金献血推進賞」を本田技研工業株式会社が、同学術賞は国立療養所東京病院名誉院長の片山透氏が受賞しました。このほか、金色有功章と銀色有功章がそれぞれ4211、7128の団体に個人に贈られました。  
式典では血液事業用車両の贈呈も行われ、株式会社ジヤパネットたかた代表取締役社長高田明氏をはじめ5団体から寄贈されました。

車両を贈呈して下さった高田氏(右)

## 中国・九州北部豪雨



健康状態について話しを聞く看護師(山口市立小鯖小学校)

7月21日からの中国・九州北部豪雨災害に対して山口県支部では、避難所となっている山口市立小鯖小学校などで巡回健康相談・このケア活動を行うため山口赤十字病院の看護師を派遣しました。

また、山口市・防府市では、同支部防災ボランティアが中心となって被災者の方々へ救援物資(毛布、緊急セット、安眠セット等)を配付しました。  
福岡県では那珂川町の避難所へ福岡赤十字病院の救護班を派遣。さらに、福岡県、佐賀県においても救援物資を配付しました。  
これらの災害に対しての義援金の受付は、7頁下段に掲載しています。

日本から参加した4人と世界の仲間

# 献血に支えられた

# 体験発表

# 献血運動推進全国大会

## 看護師として 輸血の恩返しをいま

朝山さおりさん



とができたのは、輸血が準備されていたおかげだったそうです。貴重な血液を提供してくださった方々の善意に感謝の気持ちで一杯です。

小学1年生の秋、横断歩道で車にひかれた私は、左足首を負傷し、佐世保市立総合病院で手術を受けました。事故の際の出血も多く、手術中の出血も予想されたため、事前に血液を準備。輸血を受けながら無事手術を終えました。私が安心して手術に臨むこ

## 息子の命を輝かせた献血

光武 綾さん



が、これらの症状を救ってくれたのが輸血でした。

私の息子・上総は、2006年12月9日に7歳9カ月の生涯を終えました。2歳で小児悪性腫瘍を発症した彼の人生の半分以上は入院生活。2年半は抗がん剤治療を受けていました。その副作用による貧血で動けなくなったり、血小板減少で鼻血が止まらないこともありまし

上総は「なる数日前、私に「おれ、りょうちゃんがお母さんで良かった」と言ってくれました。もし上総の思い出がこの言葉がなければ、いま自分がここに立っていられたか自信がありません。善

## 赤十字思想のルーツを探る

④グローバル世界の人的秩序的秩序構築に向けて

井上 忠男 (日本赤十字秋田看護大学教授)



二度の世界大戦を経験した20世紀を歴史家は、「戦争の世紀」という。同時に20世紀は世界が人道の実現を最も希求した「人道の世紀」でもあった。

存と尊厳を守るための国際人権法と国際人道法が急速に発展した。その中で赤十字思想の根幹をなす人道主義は、人権概念とともに国際社会の普遍的価値の中核をなすようになった。

## 泳いで 舞って 分かった!

# 視覚障害者がシンクロに挑戦

in 神奈川県ライトセンター



ミッキーマウスマーチの音楽に合わせて足を高くあげる参加者

「一般の人と同じスポーツを楽しみたい」――障害者の方のような声にこたえて、日本赤十字社が神奈川県から指定

日、視覚障害者を対象にしたシンクロナイズドスイミング教室が開催されました。

参加者の萩原トシさんは、「シンクロがどんなスポーツか分かったので、これからはテレビのシンクロ中継が楽しみです。家族や友人ともシンクロ談義が共有できます」と声を弾ませました。

# 子どもたちから感謝の絵

## 中国大地震復興支援で日赤が学校再建 四川省綿陽市



日本から支援を寄せてくれた皆さんへのプレゼントとして瓦子小学校の子どもたちが描いた絵

「今回は日本の人達が私たちに助けてくれた。今度は、私たちが困っている人を助けてあげられるようにしたい」  
—中国四川省綿陽市の瓦子小学校では、いま日本赤十字社の支援で校舎再建の工事が進められています。300人の児童たちはこうした目標を胸に、今年12月の完成を心待ちにしています。

昨年5月の中国大地震。綿陽市周辺も激しい揺れに襲われました。瓦子小学校の運動場にいた児童たちは、立っていることができず、揺れがおさまるまで、地面にはいつくばって耐えたといいます。幸い児童に死者は出ませんでした。校舎は使えなくなってしまうました。



瓦子小学校に通う双子の姉妹

地震後、仮設のプレハブ校舎ができましたが、夏には室温が40度を超えるなど、環境はよくありません。そこで日赤支援による新校舎の建設が決まり、4月には鉄入れ式が行われ、工事も7月から始まりました。

4年生の双子姉妹、何玉瓊さんと玉玲さんは「日本の赤十字と日本の人達に感謝しています」「アニメや漫画でしか日本を知らなかったけど、これからは日本のことを勉強したい」と話します。

外国人を見る機会がなかった多くの児童は、支援のために訪問する日赤の職員らに最初は怖じ気づいていましたが、いまは外国人にも日本人

にも驚きません。先生たちは「子どもたちの視野が広がり、外の世界が遠くないことに気づいたようです」と支援の思わぬ効果を感じます。

### 写真展

### 被災地での笑顔を横浜で



瓦子小学校の子どもたちの笑顔とメッセージなどを展示する写真展「MERRY in YOKOHAMA」が横浜みなとみらいで8月31日まで開催中です。写真展はMERRY PROJECT(代表

・水谷孝次氏)・日赤・JICAの共催。中国、スマトラ島の日赤復興支援の事業地を、水谷氏が取材したものです。会場では日赤の支援事業の内容も写真で紹介されます。

## 常任理事会開催報告

平成21年7月17日、本社において平成21年度第4回の常任理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

### 予算の補正について

(移動採血車「宝くじ号」の整備にかかる一般会計歳入歳出予算の補正、旭川赤十字病院のドクターヘリ運航に伴う施設設備整備工事及び広島赤

### 資金の借入について

旭川赤十字病院のドクターヘリ運航に伴う施設設備整備工事、山梨赤十字病院の産科棟等増改築工事、広島赤十

### 不動産の処分について

(日赤戸塚社宅及び日赤市川社宅の廃止、組織再編及び業務集約に伴う旧神奈川県川崎赤十字血液センターの閉鎖にかかる不動産の処分)

字・原爆病院の血管造影撮影装置の追加整備に伴う放射線科撮影室の改修工事等にかかる資金の借入

字・原爆病院の血管造影撮影装置の追加整備に伴う放射線科撮影室の改修工事等にかかる資金の借入

審議の結果、原案のとおり議決されました。また、医療施設耐震化臨時特別交付金の活用等、日本赤十字社の医療事業の運営状況、予算の補正にかかる6月分の社長専決事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

### 付議事項

付議事項

付議事項

付議事項

付議事項

## 赤十字看護大学・短期大学から平成22年度入学のご案内

日本で世界で活躍する

# 看護専門職・介護専門職になりたい学生を募集しています

赤十字の看護大学・大学院・短期大学では、赤十字の人道理念に基づく教育・研究を通じて看護・介護の知識・理論・技術等を修め、将来は国の内外で赤十字活動、保健・医療・福祉や看護の教育研究の分野で活躍する優れた専門職になりたい学生(平成22年度入学)を募集しています。

### 看護大学(看護学部:学士課程)

大学名	所在地	募集人数	奨学金・国家試験・就職先	*願書受付・試験日程等は各大学で案内しています。
日本赤十字看護大学*	東京都渋谷区	130人	●日赤奨学金等の利用者は6大学全体で在学学生の35%(H20年度) ●看護師国家試験の合格率は6大学全体で98.4%(H20年度) ●6大学を卒業した学生のうち66%が日赤の病院等に就職(H20年度)	http://www.redcross.ac.jp/ TEL 03-3409-0875
日本赤十字北海道看護大学*	北海道北見市	100人		http://www.rchokkaido-cn.ac.jp/ TEL 0157-66-3311
日本赤十字秋田看護大学	秋田県秋田市	100人		http://www.rcakita-jc.ac.jp/ TEL 018-829-3000
日本赤十字豊田看護大学	愛知県豊田市	120人		http://www.rctoyota.ac.jp/ TEL 0565-36-5111
日本赤十字広島看護大学*	広島県廿日市市	115人		http://www.jrchcn.ac.jp/ TEL 0829-20-2800
日本赤十字九州国際看護大学	福岡県宗像市	100人	http://www.jrckicn.ac.jp/ TEL 0940-35-7001	

(注)\*印の大学では、認定看護師の教育課程も開設しています。(開設コース等の詳細はWebサイトをご覧ください。)

### 大学院(看護学研究科:修士課程・博士課程)

大学名	所在地	課程	募集人数	*併設している専門看護師の教育課程の領域。
日本赤十字看護大学大学院	東京都渋谷区	博士	看護学専攻5人	—
		修士	看護学専攻30人、助産学専攻15人	がん・小児・慢性疾患・クリティカルケア・精神
日本赤十字北海道看護大学大学院	北海道北見市	修士	看護学専攻6人、助産学専攻10人	がん・感染症
日本赤十字広島看護大学大学院	広島県廿日市市	修士	看護学専攻10人	がん・小児・母性・精神・地域
日本赤十字九州国際看護大学大学院	福岡県宗像市	修士	看護学専攻10人	—

(注)願書受付・試験日程等の詳細は、上表の大学Webサイトをご覧ください。

### 短期大学(介護福祉学科)

大学名	所在地	募集人数	就職	*願書受付・試験日程等は大学で案内しています。
日本赤十字秋田短期大学	秋田県秋田市	50人	●卒業生のうち96%が介護関係の施設等に就職(H20年度)	http://www.rcakita-jc.ac.jp/ TEL 018-829-3000



# 水の事故への備え各地で

## 水上安全法救助員養成講習会

海や川での事故が多発する夏本番を前に、各地で水上安全法救助員養成講習会が開催されました。水の事故防止とおぼれた人を救助する知識や技術の普及が目的です。



救助用チューブでの救助 (千葉)

福岡県支部では6月中旬に県内3カ所のプールで開催し、計117人が受講。「救急隊の到着前に周囲の人による適切な処置があれば助かっていた」という事故を何度も経験し、昭和41年から講習普及に努めてきた元消防署勤務の川島勝治さんが指導員を務めました。

千葉県支部は6月の3日間、習志野市内のプールで開催し、



溺者にしがみつかれた時の離脱の実技 (熊本)

## 赤十字の現場から



看護師の資格をとるために通信教育を受講中で、5月8日は東京・大森駅の近



大高さん(左)と長谷川さん(右)

展示された災害用品を手にとり「いざというときに安心ね

くにある学校へ同僚の大高恵美子さんと一緒に講義を受けに行っていました。授業が終わり、駅の階段

となので、立ち去ろうとしたところ、男性の呼吸が急に止まってしまったんです。

「ツチが入ったように思いました。」「しっかりしては、下手なことはできない。冷静になれ」と自分に言い聞かせました。

えだし涙があふれてきました。緊張がとけたのだと思います。勤務している病棟は循環器内科ですから、心臓マッ

ません。大高さんが一緒にいてくれたので心強かったです。すぐに行動できたのだと思います。

## からだが震えた突然の人命救助措置

東京大田区の大森警察署から感謝状

大田原赤十字病院(栃木県)准看護師 長谷川淳子

マッサージを始めていました。無我夢中でした。周りの方が「看護師さんですか?」と聞いてきました。私は「看護師です」と答えましたが、その瞬間にスイ

マッサージを30回くらい続けたところで、男性は息を吹き返されました。それから10分ほどで救急車が到着しましたが、病院へ搬送された後、急に体が震

サージは経験していません。その経験が生かして良かったと思います。でも、ああした状況でもし一人だったら、とっさの救命措置をためらっていたかもしれ

ですが、准看護師として30年間経験してきたことを授業や教科書を通して「こういうことだったんだ」と確認し、整理しています。新たな発見や驚きがあり、楽しいですね。

## 県内唯一の障害者施設が創立50周年

徳島

徳島赤十字ひのみね総合療育センターが創立50周年を迎え、6月10日に記念式典をセンター内で開催。利用者や保護者、職員ら約100人が出席しました。



あいさつする関政明さん

昭和34年に開設された同センターは現在、身体障害者療護施設と重症心身障害児施設を併設。子どもから大人までを対象とした県内唯一の障害者施設に発展しています。

式典では、利用者代表の関政明さんが、「今後も高度医療、質の高い介護、生活支援を提供する施設として発展することを願っています」と祝いの言葉を述べました。

式典終了後は「お笑い福祉士」という講座を県内外で開

いている徳島県出身の落語家笑福亭学光さんが落語を披露。会場は笑いに包まれました。

## 「いのち」の大切さ学んだドーナツ作り

愛知



自慢のドーナツでポーズ

愛知県小牧市赤十字奉仕団

は7月6日、小牧市立光ヶ丘小学校3年生の児童と一緒にドーナツ作り挑戦しました。児童たちに生き物との関わり合いを通して、「いのち」の大切さを学んでもらおうと同奉仕団が企画したもの。

児童たちは種まきから収穫、そして菜種油しほり体験。自分たちで育てしほった菜種の油で揚げるドーナツに児童は、「おいしい! もっと食べたい!」と大満足。

## 赤十字が災害救助：知らなかつたの声

愛媛

愛媛県赤十字血液センターは6月13日、14日の2日間、「世界献血者デー」を記念したイベントを愛媛県赤十字血液センター大街道献血ルームで実施しました。

イベントでは、災害用救護パネルや災害用品の展示、複数回献血者クラブとHLSA適合血小板献血者の登録キャンペーンなどを行い、登録者には「けんけつちゃん」のぬいぐるみとストラップをプレゼントしました。

災害用救護パネルの展示コーナーでは来所者から「赤十字が災害救助をしていることを知らなかつた」の感想も出されました。

## 東国原支部長も出席 支部創設記念大会

宮崎

宮崎県支部は創設120周年記念大会と第34回宮崎県日赤有功会総会を6月29日に宮崎観光ホテルで開催しました。評議員、地区長分区分長、有功会員、赤十字奉仕団員など約230人が参加しました。

「世界献血者デー」を記念したイベントを愛媛県赤十字血液センター大街道献血ルームで実施しました。

記念式典では、宮崎県知事である東国原支部長が、「日赤の使命である人間の命と健康、尊厳を守るために、これからも皆さんと一緒に活動し

てまいりたい」とあいさつ。赤十字奉仕団や有功会員など25人に、東国原支部長から感謝状の贈呈が行われました。

## 夏こそ献血——岡大学生が応援

静岡

静岡県血液センターは7月5日、献血を呼びかけるイベントを開催しました。

平成20年度、静岡県では14万3655人が献血をし、13万180本の輸血用血液を病院へ届けています。

活動のあり方などについて学ぶのが狙い。「赤十字は国から補助金をもらって活動をしてよいか」というテーマで「賛成」「反対」に分かれてディベートを行いました。



浴衣やハッピー姿で大学生ボランティアが献血を呼びかけ

## 奉仕団活動のあり方について

千葉

千葉県支部は6月17日、赤十字奉仕団リーダーフォーローアップ研修会を開催。各地域でリーダーとして活動している赤十字地域奉仕団員26人が参加しました。

研修会は、「赤十字奉仕団



賛成・反対に分かれてディベート

討論では、「赤十字の基本原則順守のために、補助金は受け取るべきではない」「赤十字も他のNPO法人と同様、補助金は問題ない」など、日ごろ地域に密着した活動を実践している地域奉仕団員ならではの論点から意見が出されました。

# 県内初の高度救命救急センターに指定 徳島赤十字病院

徳島赤十字病院が6月16日、「高度救命救急センター」に指定されました。四国では初めて、全国で22番目です。高度救命救急センターは、従来の救命救急センターの診療機能に加え、広範囲の熱傷



ドクターヘリも配備

や急性中毒など特殊な疾患患者に対応した高度な救急医療を提供する施設。国が定める治療実績や医師数、医療設備などの要件を満たす必要があります。同院では昨年8月からドクターヘリを備え、県の基幹病院として、遠隔地からの交通事故や心筋梗塞など、重症患者の救急搬送とその受け入れを担ってきました。

## 上田米蔵翁の胸像除幕式 福

赤十字の事業に巨額の資金援助を行った福岡県の実業家・上田米蔵氏の胸像が、日赤



日赤九州国際看護大学に移築された胸像

福岡県支部から日赤九州国際看護大学に移築されました。7月5日に同大学キャンパスで除幕式が開催され、教職員や学生、卒業生など約250人が参加しました。

## お年寄りの気持ちがあつた介護教室 北海道

石炭産業で成功を収めた上田氏は、昭和33年に私費を投じて福岡赤十字高等看護学院の設立に尽力。胸像はその功績を称えて昭和34年に建立されたものです。昭和43年には上田奨学会が発足しています。除幕式では、上田氏の孫で

北海道青少年赤十字賛助奉仕団は7月1日、「らくらく介護教室」を札幌市立栄北小学校を会場に開催しました。同小学校は青少年赤十字加盟校で、4年生3クラスの児童約80人が参加しました。介護教室は総合学習授業の一環。ボランティア活動や社会福祉への関心を児童に持た



児童たちで介護体験

現在、上田奨学会理事長を務める上田康藏氏が、立派な看護師になれるよう学んでください」とメッセージを送りました。せ、青少年赤十字活動の充実を図ることが目的です。教室では、体位移動介助と車いす移動時の介助、身体の一部の3つのプログラムをクラスごとに体験。児童からは、「お年寄りの気持ちがわかった」「体がマヒしているとなんか歩きづらいと思わなかった」などの感想が出されました。

# 心からの寄付に感謝

高知市潮江赤十字奉仕団委員長の高橋正子さんが7月1日、高知県支部と高知赤十字病院へそれぞれ100万円を寄贈。支部の山本俊二郎事務局長から金色有功章が贈呈されました。

高知県支部では、災害救護活動や救急法講習など安心・安全の事業に、高知赤十字病

院では無散瞳眼底カメラの購入に寄付金を活用させていたが予定です。

福井市に住む男性(69歳)が6月17日、福井県支部を訪問。亡くなった妻の一周忌にあたって、赤十字病院の担当医や看護師らへ感謝の気持ちとともに、赤十字事業資金として10万円を寄付しました。

治療と看護のお礼 福井に10万円を寄付

## 平成21年7月21日から大雨被害に伴う義援金受付について

山口県支部における義援金受付  
 名称：山口県7.21大雨災害義援金  
 受付期間：平成21年7月27日(月)～8月26日(水)  
 受付口座：郵便振替口座 01260-8-80002  
 加入者名 日本赤十字社山口県支部  
 ※通信欄に「山口県大雨災害」の明記をお願いします。受領証発行を希望される場合は、その旨を通信欄に記載してください。郵便局窓口での取扱いの場合、振替手数料は免除されます。なお、福岡県における災害への義援金の受付は、ホームページまたは最寄の支部へお問い合わせください。(ナビダイヤル0570-009595)

# クローズアップひと

日本赤十字社和歌山医療センターからマニラにあるWHO(世界保健機関)西太平洋事務局に派遣されています。感染症調査対策課のスタッフとして、新型インフルエンザの最前線に立つ毎日。「新型インフルエンザの対策計画を各国で立案することを支援したり、感染予防対策のガイドライン作成、坑インフルエンザ薬の検討、病院の準備対応などが私の担当です」

赤十字とWHOとの関係強化も大津さんの取り組み課題の一つ。「赤十字の強みは、各国に在る草の根ボランティアの存在。こうしたネットワークを新型インフルエンザ対策にも生かせるよう検討をしています」

1に入り腎臓内科に配属。スマトラ、パキスタンなど各国の災害現場への派遣経験も多い。そんな大津さんがこれまでの経験とは異なる分野の仕事に携わる

## 感染症対策の最前線に立つ毎日

ようになったのは、「社会全体の健康」という意味での公衆衛生への興味からだそうです。「公衆衛生は幅の広い分野。豊富な経験と知識が必要です。毎日検討を重ねて、知恵を絞って出てきた結果でも、答えは一つではありません。勉強不足を実感し、日々精進しています」

WHOにきてからは、ずっと駆け足で仕事を続けてきました。メキシコで発生した新型インフルエンザ(H1N1)がパンデミックになった6月以降は加速度的に忙しい状態に突入し、プライベートを楽しむ時間がほとんどなくなりました。時が少し残念だといいます。「趣味はダイビングです。時間があると、フィリピンのどこかの島にいつか海に潜ってみたいですね」

# Voice & 懸賞クイズ

◆ボランティア活動が衰退？  
 豊島政之さん(阿賀野市) 7月号で赤十字ボランティアが減少傾向にあると知り、赤十字活動が衰えていくのではと心配です。「赤十字があつて本当に助かった」という方々への協力を求めることが大切だと思います。

◆初めて読んだ赤十字新聞  
 伊藤栄子さん(千葉県山武郡) 役場で初めて赤十字新聞(7月号)を手に取りました。「幸せをスランに乗せて」の記事を読み、自分の健康をありがたく感じました。ボランティアの方々は立派だと思

◆冷静な対応をしたい  
 山本里奈さん(愛媛県伊予郡) 「泳げる」が100メートル以上泳げる、「自分の身を守る」が連続で300メートル以上泳げることを初めて知りました。おぼれている人を見つけたら、冷静な対応をとりたいです。

◆涙ができました  
 匿名希望さん 「赤十字の現場から」の小原大介さんのレポートにとても感動しました。涙が出ましたが、日赤の職員の方も家族を残して必死に働いておられたのですね。

◆「Voice」と懸賞クイズの応募方法  
 クイズ問題①の解答に意見や感想を添えて、葉書、FAXまたはメールでお送り下さい。今月号の応募締め切りは8月14日(必着)です。お名前、連絡先(住所、電話番号)を明記して下さい。



医師 大津 聡子さん (世界保健機関 西太平洋事務局)

平成13年に日赤和歌山医療センター



ケニア東部で洪水被災者に対し衛生教育を行う(2007年)

## 今月号のプレゼント



「ジュネーブにある赤十字博物館のボールペンを3名様に。博物館ロゴマークが入っています」

7月号の懸賞クイズの答え  
 問題① 糖尿病関連  
 問題② 山ゆり  
 当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

その旨もご記入下さい。  
 <応募先>  
 郵便〒105-8521  
 東京都港区芝大門1-1-3  
 日本赤十字社企画広報室 赤十字新聞係  
 FAX 03-3437-7091  
 メール kohn@jrc.or.jp

8月号懸賞クイズ  
 問題① 神奈川県ライトセンターで視覚障害者が挑戦したスポーツは略して何？  
 答え □□□□(カタカナ4文字)  
 問題② 小牧市立光ヶ丘小学校の3年生が育てた植物は？  
 答え □□□□(漢字2文字)  
 ヒントは「赤十字新聞8月号」の記事の中です。

# ミャンマー

## 裸足の生活にも理由があった! ミャンマー・サイクロン復興支援に携わって



日赤和歌山医療センター 吉田千有紀

「現地の文化や習慣を大切にしなければ、保健衛生の正しい知識を伝えていくことは困難です。どの国の方も、自分たちの伝統や習慣に誇りを持っています。これを尊重したうえで、支援を進めていくことが必要です」

こう語るのは、国際赤十字チームの一員としてミャンマー・サイクロン災害の復興支援活動に取り組む吉田千有紀看護師（日本赤十字社和歌山医療センター）。このほど一時帰国し、支援の取り組みなどについて報告しました。

### 川に落ちて分かったこと

吉田さんがミャンマーに赴任したのは昨年7月。保健衛生分野の復興支援が担当で、衛生教育や感染症の予防対策などに取り組んでいます。

「洪水の後は、安全な水の確保が困難になり、下痢症になる人が大勢出ます。溜池や水たまりにボウフラ（蚊の幼虫）が発生することで、蚊を媒介したデング熱などの感染症も拡大しています」

こうした感染症を防ぐために重要な衛生教育ですが、地元的生活を理解して進めることが大切だと言います。その例として吉田さんは「裸足の生活」を指摘しました。

「被災地ではみなさん裸足です。不衛生、



丸太橋を裸足でスイスイ渡る村民と靴を履いているため、恐々と渡る吉田看護師 ©IFRC



衛生教育活動の一つ、村でのグループワークの様子 ©IFRC

感染症の危険があると指摘するのは簡単です。ところが、被災地は大小の川が入り組んだデルタ地帯ですから、川にかかった丸太の一本橋を渡ったりすることが多い。裸足の足なら指で踏ん張れるから大丈夫なんですけど、靴を履いて渡ろうとすると滑って転んでしまう。実は私も2度ほど川に落ちまして、それからは裸足で渡るようにしています」

こうした現実を知らずに、「裸足は不衛生」などと押しつけては、衛生教育は机上の空論で終わってしまい、現地に根付かないことを吉田さんは強調します。

### コミュニティの力を大切に

サイクロンによって両親が亡くなった孤児は数百人にも。この子どもたちの「こころのケア」も大切になっています。

最も大きな被害を受けた地域の一つラプタでは200人を収容できる孤児のための施設が作られましたが、生れ育った地域から離されて施設で暮らすことは辛く、体調を崩す子どもも。そこで、里親制度を新設し、地域で育てる取り組みが始まっています。

「大切なのは、コミュニティ全体で子どもたちを見守っていく仕組みだと思います。そのために、住民の方の要望を踏まえたイベント開催にも私たちは協力しています。料理

づくり大会や運動会、カラオケ大会などを開いてきました」

子どもたちの問題については、学校の再建による教育支援も大きな課題。サイクロンにより倒壊、部分的な被害を受けた学校は4000校にも達します。日赤は、ミャンマー赤十字社が実施する小学校再建事業についても支援を開始しています。



こころのケアの活動の一つ、料理づくり大会の様子 ©IFRC

### 使い捨てないエコから学ぶ

ミャンマーでの活動で一番嬉しかったこととして吉田さんは、ミャンマー赤十字社のボランティアの頑張りをあげます。「私たち外国人スタッフと違い、みなさん休みなく働いている。献身的です」

また、吉田さんたちが村を訪問する際の村民たちの歓待ぶりにも感動すると言います。

「私のような外国人が訪問するとなると、村の方たちは大歓迎してくれるのですが、天候などで時間に遅れることがあっても、ずっと到着を待っていてくれる。義理人情の厚い国民性だと感じます」

使い捨てをしない、物を大切にする文化にも共感するところが多いと言います。

「日本からの中古車がたくさん走っていますが、中には雨漏りがするので車内で傘をさす車もあるほど。だけど、簡単には廃棄しません。使い捨てのマスクも洗って再利用しています。日本ではエコが叫ばれていますが、彼らの物を使い捨てにしない生活から、たくさん学ぶことがあるのではないのでしょうか」

## 自然災害の死者23万人

### 過去10年でワースト2の被害

#### 国際赤十字が「世界災害報告2009」を発表



2008年の自然災害による死者は23万5736人で、スマトラ島沖地震・津波災害が発生した2004年の24万人余りに次ぐ被害規模だった、と国際赤十字が「世界災害報告2009」で明らかにしました。

#### ミャンマー、中国で甚大な被害

同報告書によると、把握されている昨年の自然災害は326件で、航空事故などの人的災害は259件でした。これは過去10年間の災害報告件数で最少。被災者総数は2億1300万人で2007年とほぼ同じ水準でした。

それにもかかわらず、死者数が過去10年で2番目の水準になったのは、昨年5月2日にミャンマーを襲った大型サイクロン「ナルギス」と、同12日に中国四川省を襲った巨大地震によるもの。全体の死者数の93%がこの2つの災害によって占められています。

また、これらの自然災害による経済的損失額は世界全体で1810億ドル（約17兆5000億円以上）と推計されています。

#### 気候変動により増える自然災害

1990年代の半ばまで、自然災害発生件数は年間150~200件前後にとどまっていた。ところが90年代の後半から急増し、最近10年の平均は約350件に達しています。



洪水やハリケーンの情報に早期に得るために、国際赤十字はハイチ、ニジェール、ケニア、ウガンダなどの農村部で太陽電池のラジオを配付している。©Freelay Foundation

この背景にあるのが、昨年ミャンマーを襲ったサイクロンや2005年にアメリカ南部への大被害をもたらしたハリケーンなどに象徴される極端な気象現象です。

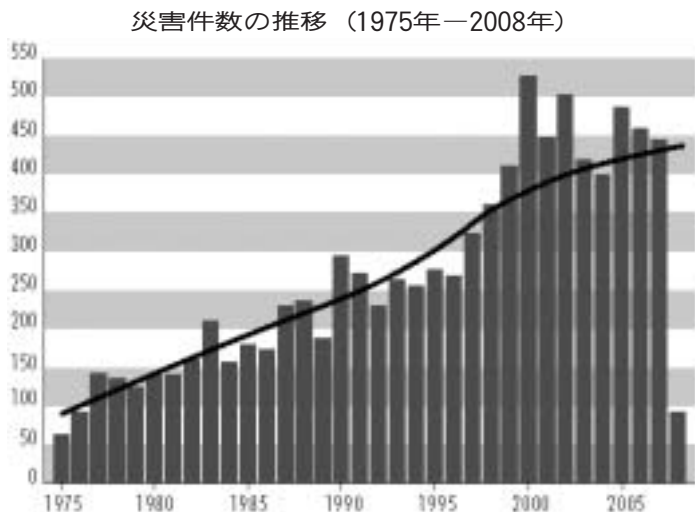
国際赤十字のベケレ・ゲレタ事務総長は、「気候変動による災害の脅威に対しては、今日の世界経済危機と同等の世界的対応が必要だ」と指摘しています。

#### 求められる予防行動

今回の報告書では特に、「災害発生への対応は、その予防にかかる経費の4倍だ」と指摘し、早期警戒システムの活用と早期行動を求めています。

国際赤十字では2002年に「赤十字・赤新月気候センター」を設立。早期警戒・早期行動の研究に着手するとともに、他の国際機関との協力を進めています。

ゲレタ事務総長は、「災害は地域住民が災害に対応できなくなったときに災害となる。世界で最も貧しく、脆弱な人々がこの災害の危険に最もさらされている」と予防活動に力を入れる必要性を強調しています。



注：曲線は数値の推移をなぞったもの。増加傾向を示す。(出典:EM-DAT, the International Database)